

# みんなで取り組もう カーボンニュートラル

経済と環境を両立する  
再生可能エネルギー循環都市を目指して

今、私たちが暮らす地球は温暖化が進んでいます。国は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラルを目指す」と宣言しました。温暖化をくい止めるカーボンニュートラルとは何か、私たちにできることは何か、一緒に考えてみましょう。

☒市環境衛生課環境保全係 ☎31-0933

進む温暖化、何が問題なの？

「昔はもっと雪が積もっていた」「捕れる魚の種類が変わった」「桜の開花が早くなった」昔と比べて何かが違うと感じる方は少なくないのではないのでしょうか。その原因の1つとして考えられているのが地球温暖化。本市の平均気温は、年々上昇傾向にあります。

温暖化が進むとどうなるの？

●自然災害の増加

日本全国でこれまでにない豪雨や台風、厳しい猛暑などの異常気象が増え、河川の氾濫や土砂崩れなどの自然災害が数多く発生することが予想されます。

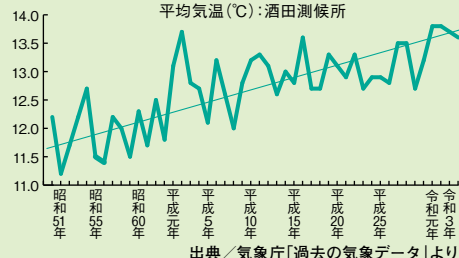
●農業や水産業にも及ぶ影響

温暖化により地域の生態系が変わってしまうことで、例えば、漁獲量の減少や農作物の品質低下、収穫量の減少など、さまざまな影響があると言われています。

取り返しがつかなくなる前に

温暖化により、健康や経済活動などへの影響が出ると考えられます。将来の世代も安心して暮らせる社会をつくるため、いま温暖化を止めることが必要です。

酒田市の平均気温の推移  
平均気温(℃):酒田測候所



## 温暖化の原因って何だろう？

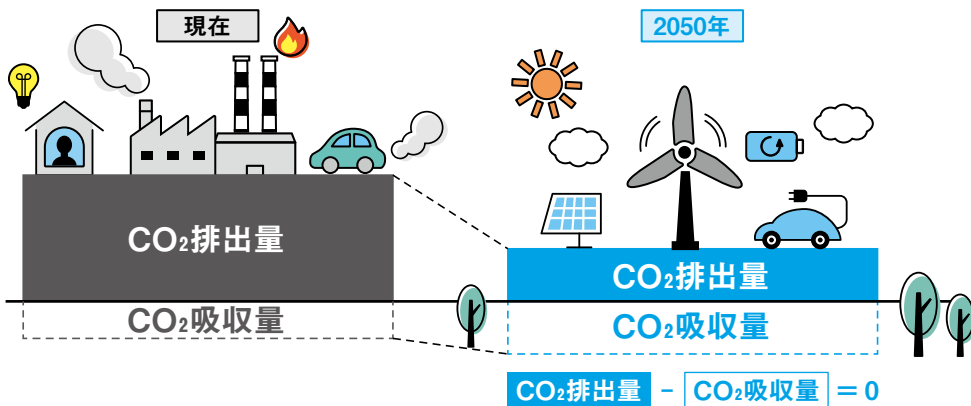
温暖化の主な原因は、二酸化炭素（以下CO<sub>2</sub>）をはじめとする「温室効果ガス」です。私たちの暮らしに電気や自動車は欠かせませんが、電気などのエネルギーを作るときに石油や石炭を使ったり自動車をガソリンなどで走らせたりすると、大量のCO<sub>2</sub>が排出されます。このCO<sub>2</sub>などのガスが宇宙への熱の放出を妨げ、地球の熱がこもって温暖化を引き起こしています。

## 温暖化を防ぐ「カーボンニュートラル」とは

世界では、温室効果ガスの「排出量」から、森林などによる「吸収量」を差し引いた合計が実質ゼロになる「カーボンニュートラル（脱炭素）」を目指す動きが進んでいます。

温暖化を防ぐには、CO<sub>2</sub>の排出量を減らし、世界全体でカーボンニュートラルの実現に取り組む必要があります。本市でも今年度、市のCO<sub>2</sub>

削減のための具体的な取り組みを定める新たな計画を作ります。今後、私たちの暮らしや産業などの経済活動と環境保全の両立を図りながら、再生可能エネルギー循環都市として、持続可能な社会を目指します。



## Interview

### 温暖化を防ぐために 私たちにどんなことができるか

東北芸術工科大学 三浦秀一教授にお話を聞きました。

ご家庭では近年、電気、ガス、石油の価格高騰が家計を直撃し、節電を心掛けている方も多いかと思います。実はCO<sub>2</sub>を減らしていくことは、家計の負担を減らしていくことにもつながります。重要なのは徹底した省エネと再生可能エネルギーの活用です。

省エネといっても、我慢の省エネでは長続きしませんし限界があります。効果的なことは、省エネ性能の高いものを選んで使うこと。例えば冷蔵庫など電力消費の大きい家電の買い替えや、住宅の窓などの断熱リフォームも効果的です。また私たちの暮らしに自動車は手放せないもの。低燃費車を選ぶことが大切ですが、最近増えてきた

電気自動車なら、その電気を再生可能エネルギーで賄えばCO<sub>2</sub>はゼロになります。再生可能エネルギーとは太陽光・風力・水力・バイオマスといった温室効果ガスを排出しない、国内で生産できるエネルギーです。家庭で導入できる再生可能エネルギーは太陽光発電でしょうか。実は酒田市はそのほかにも風力や水力、森林を活用したエネルギーなど、再生可能エネルギーの資源に恵まれた都市でもあるのです。



東北芸術工科大学  
建築・環境デザイン学科  
三浦 秀一 教授

## 市内事業所などでも先進的な取り組みを進めています！

### 太陽光発電の導入・食品廃棄物の100%リサイクル化 (株)トー屋

(株)トー屋みずほ通り店では、今年3月から同社で初の再生可能エネルギーの利用となる太陽光発電を稼働しています。季節や天候などによって発電量は変わりますが、同店の約20%の電力量(年間約18万キロワット時)の発電を予定し、年間のCO<sub>2</sub>削減量は約120トンを見込んでいます。

また、同社の食品廃棄物のリサイクル率は、平成27年から100%を達成。野菜くずなどを堆肥としてリサイクルしています。



▲同店舗屋根に設置された計532枚の太陽光パネル  
(写真提供：(株)トー屋)

### ブルーインフラ実証実験

#### 国土交通省酒田港湾事務所

今年5月から酒田港北港船だまりで、海中にコンクリートなどの構造物を設置して藻場を作り、脱炭素や生物共生に貢献する「ブルーインフラ」の実証実験が行われています。

海草や海藻などが吸収するCO<sub>2</sub>は「ブルーカーボン」と呼ばれ、植林と同様にCO<sub>2</sub>削減効果が期待されています。現在、5つの団体がCO<sub>2</sub>の吸収量や海洋生物の生息状況を調査する実験を進めています。



▲ブルーインフラ実証実験(イメージ)  
(写真提供：酒井鈴木工業株)

### 農地へのバイオ炭の活用

#### 庄内バイオ炭環境保全協議会

市内生産者などで組織する同協議会では、剪定枝やもみ殻などのバイオマスを原料にバイオ炭を製造し、農地の生産性を高める土壌改良剤として活用しています。

バイオマスは通常、燃やしたり腐ったりして分解されるとCO<sub>2</sub>として大気中に放出されます。しかし、バイオ炭は最低でも数百年間は分解されず、長期的に地中に閉じ込めておくことができるため、大気中のCO<sub>2</sub>削減にもつながります。



▲バイオ炭をまいた畑の様子  
(写真提供：庄内バイオ炭環境保全協議会)

## 本市の取り組みを紹介します

### 新築住宅への再生可能エネルギーの導入促進

新築住宅に太陽光発電設備と併せて蓄電池設備を導入する際の費用の一部を市で支援する制度を今年度から開始します。



### 市公共施設のLED化推進

省エネルギー改修にかかる全ての経費を光熱水費の削減分で賄うE.S.C.O.事業により、公共施設のLED化を進めます。



### 森林資源の適切な管理によるCO<sub>2</sub>吸収源の確保

間伐や再造林など適切な森林管理を推進します。林業の活性化と森林資源の適切な管理を促進します。



### 再生可能エネルギー導入の検討

国・県で進める洋上風力発電などの再生可能エネルギーの導入について、地元関係者とその可能性の検討を進めます。

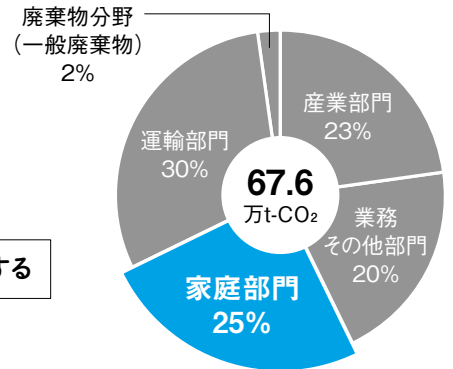


身近なことから  
始めよう

## 今日からできる環境にやさしい暮らし

本市のCO<sub>2</sub>排出量の約25%は家庭部門からの排出。私たちの日常生活のちょっとした行動を見直すだけで、CO<sub>2</sub>の削減につながる取り組みはたくさんあります。

本市のCO<sub>2</sub>排出量の部門別内訳  
(令和2年度)



出典/環境省自治体排出量カルテ

### できることから始めてみましょう!

- ☑長時間使わない家電製品の電源プラグはコンセントから抜く
- ☑電球、蛍光灯などの照明器具をLED照明にする
- ☑古いエアコンや冷蔵庫を省エネ性能の高いものに買い替える
- ☑ごみと資源をきちんと分別・リサイクルして、もやすごみを減らす  
ごみを燃やすときにCO<sub>2</sub>が出ます。雑がみは「紙類資源」としてリサイクル。生ごみは毎日ギュッと水切りして出すだけで、市全体で年間約903tのごみを減らせます。
- ☑住宅に太陽光パネル・蓄電池を導入する
- ☑エアコンの温度設定は、夏は室温28℃、冬は室温20℃を目安に
- ☑カーテンやブラインドで室温の変化を調節し、冷暖房の効率を上げる
- ☑自家用車に乗るときはエコドライブ、近場への外出は徒歩や自転車です

ほかに!



▲環境省  
ゼロカーボン  
アクション30

皆さんの  
ご意見  
をお寄せください



公開期間  
8月20日まで

**小さなことから始めてみませんか?**

温暖化による影響は近年、私たちに迫ってきている問題です。現在、市内でも事業者が温暖化対策のために再生可能エネルギーを活用した取り組みを始めています。それと同時に、私たち一人ひとりができることから生活スタイルを見直し、地球にやさしい選択をすることも重要です。たとえそれが小さな一歩だとしても、皆さんが日常的に取り組む一歩の積み重ねが、温暖化対策につながります。

未来を生きる子どもたちのために、現在を生きる私たちの責務として、皆さんで一歩を踏み出してみよう。